

## R4 集落实態調査からの報告 No.12

前号まで、令和4年に実施した集落实態調査について報告してきましたが、3年経った現在の状況はどうでしょうか。今までの報告内容をたどってみますと **報告No.1** (R6.5 発行) では、「**人口**」について報告しました。

岩代地域の人口が減っています。H18.4.1とR6.4.1(18年間)を比較すると、これから地域を担う年代「年少人口(0歳~14歳)」と現在地域を担っている年代「生産年齢人口(15歳~64歳)」が減っており、合併時の半以下になっています。しかも、20~39歳の女性は62.2%減っていることがわかりました。

**報告No.2** (R6.6 発行) では、「**世帯の主な収入**」「**通勤先**」「**買い物先**」「**通院先**」について報告しました。

「**世帯の主な収入**」は、約半分の世帯は会社員、3分の1はその他(年金等)、農業及び自営業は共に約8%台、商業は1%にも満たない状況で、全世帯の半分を占める会社員の「**通勤先**」は、地区により多少の違いはありますが、岩代地域全体では二本松地域、岩代地域、本宮市の順番。「**主な買い物先**」は、二本松地域、安達地域、岩代地域の順番で、「**主な通院先**」は、二本松地域、岩代地域、安達地域という結果でした。しかし、新殿・旭地区についてみると、通勤先、買い物先、通院先は田村市への依存度が高いことがわかりました。

**報告No.3** (R6.7 発行) では、「**自治会の行事・イベント・作業**」について報告しました。

岩代地域の全自治会の単純計算で、自治会では年間8.3回の「集まり」が行われています。岩代地域で「集まり」の多い項目は道路愛護や草刈作業が一番多く、次に総会等、祭礼・祭、新年会(顔合わせ会)、芋煮会・収穫祭、花見と続き、開催月では、4月、10月、1月、7月、3月の順に多いことがわかりました。

ただし、コロナ禍により、イベント等の中止が相次いでいましたので、コロナ禍前はもっと多くの集まりが行われていたものと思われます。

**報告No.4** (R6.8 発行) では、「**共同活動等(10項目)の状況**」について報告しました。

「**昔から行っている**」のは、冠婚葬祭時の助け合い(全自治会の100.0%)、道路沿線の草刈作業(92.9%)、集落の祭りや行事(85.7%)、神楽、盆踊り、太鼓などの伝統行事(63.1%)などでした。

「**昔は行っていたが今は行っていない**」のは、農作業(61.9%)、旅行や運動会などのレクリエーション(40.5%)、花木の植栽などの環境美化(15.5%)などです。

「**昔から行っていない**」のは、地元特産品の開発・加工・販売(94.0%)、集落外との交流や体験受け入れ(86.9%)、高齢者の見守り声掛け(41.7% ※自治会としては行っていないが、隣人、知人は行っている。)などです。

特産品の開発や集落外との交流などは昔から行っておらず、消極的なことがわかりました。

**報告No.5** (R6.9 発行) では、「**自治会内組織団体**」「**生活組織等の状況**」について報告しました。

「**自治会内組織団体**」については、農業団体(24団体)、親睦団体(14)、環境保全団体(13)、祭礼関連団体(11)、地域振興団体(6)、運動関連団体(4)、自治会施設管理団体(2)、芸能団体(1)、交通安全団体(1)との回答がありましたが、若干少ないように感じます。コロナ禍の影響なのかなと思っています。

団体が復活し、コロナ禍前のようにそれぞれの団体が、楽しく、活発な活動をされるよう望んでいます。

「**生活組織等の状況**」については、「**昔から現在まで引き続きある**」のは、消防団(全自治会の100.0%)、老人会(88.1%)、子供会(29.8%)と続きます。残念ながら「**昔はあったが今はない**」のは、青年会(78.6%)、婦人会(72.6%)、子供会(69.0%)と続いています。少子高齢化の影響だけでなく、やはり若い家族が岩代からいなくなっているのかなと思われます。

「**昔からない**」のは、壮年会(88.4%)、サロン(56.0%)などです。

**報告No.6** (R6.10 発行) では、「**自治会の概要(特徴)**」「**自治会の誇りや自慢**」について報告しました。

各自治会から報告のあった内容を一覧表にして報告しました。

**報告No.7** (R6.11 発行) では、「**地区外へ紹介したい地域資源**」について報告しました。

各自治会から報告のあった内容を一覧表にして報告しました。

**報告No.8** (R6.12 発行) では、「荒廃した農地や林地」「放置竹林の被害」「鳥獣被害」について報告しました。

「荒廃した農地や林地」がある自治会は 74 自治会で、88.1%でした。高齢化、後継者不足、農作物の価格低迷、肥料や資機材などの価格高騰、農機具の維持費用などの複合的な要因により耕作放棄地が増えていると思われます。

「放置竹林の被害」がある自治会は 55 自治会、65.5%でした。がけ地の崩落防止のために植栽したものが降雪時に道路に垂れさがり交通に支障をきたしているようです。また、適切な管理ができず土砂崩れを起こしている例も見られます。(浅く根を張る地下茎は土砂崩れの一因ともいわれています。)

市では、竹や樹木の粉碎機の貸し出しを行っております。支所産業建設課(65-2821)までお問い合わせください。

「鳥獣被害」がある自治会は 69 自治会、82.1%でした。イノシシの被害は減っているものと思われますが、ハクビシンやアライグマ、サルなどの被害が増えているようです。住み分けのための緩衝地帯をつくるためにも人家や農地周りの草刈ができればいいのですが、なかなか手が回らないのが実状のようです。

**報告No.9** (R7.1 発行) では、「日常的な顔合せの機会や場所」「共同活動の実施状況(10項目)」「自治会の維持、安心して暮らしていくための話し合い」「自治会の存続対策(現在行っていること、行いたい事)」について報告しました。

「日常的な顔合せの機会や場所」は、自治会の行事が主で、集会所やその行事の実施場所でしたが、日常的な隣近所でのお茶のみなどはコロナ禍でなくなったとの回答がありました。見守りや安否確認、そして何よりも情報交換のために重要な隣近所の「お茶のみ」早く復活できればいいですね。

「共同活動の実施状況」で「昔から行っている」ことは、「冠婚葬祭時の助け合い」や「道路沿線の草刈作業」「集落の祭りや行事」などです。一方、残念ながら「昔は行っていたが今は行っていない」のは「農作業(田植え、稲刈り)」や「旅行や運動会などのリクリエーション」などでした。農作業は機械化によるものと思われる。高齢化や人員不足により仕方ないことですが、旅行やレクリエーションなど、地域の人達が楽しみにしている行事が行われなくなっていくのは残念な事です。

「自治会の維持、安心して暮らしていくための話し合い」は 23/84 自治会、27.4%が行っています。

「自治会の存続対策(現在行っていること、行いたい事)」はイベントの実施や簡略化、役員の見直しなど行っている自治会があり、事業計画を策定している自治会もあることがわかりました。夢を持って語り合い、自治会が活性化するための方策を話し合っていたらいいと思います。

**報告No.10** (R7.2 発行) では、「自治会の維持に関する不安の度合い(16項目)」について報告しました。

自治会を維持していくうえで『不安』を抱えているものは、多い順から「後継者がいない」「田畑や山林の維持管理」「地すべりなどの災害の発生」などですが、地区別にみると3地区とも第1位は「後継者がいない」でしたが、2位以下については地区の事情により不安項目が違っていました。岩地域域全体の「不安はない」の16項目の平均は26.0%であることから、74.0%の不安を抱えて生活していることがわかります。

**報告No.11** (R7.3 発行) では、「自治会の現状」「自治会の維持の見通し」「自治会の今後の方向性」について報告しました。

「自治会の現状」は、合併時には無かった限界集落が令和5年には28自治会(33.3%)になりました。そして、準限界集落も10自治会から52自治会、5.2倍となりました。少子高齢化と人口減少が進んでいることが数字として表れました。

「自治会維持の見通し」は、11自治会(13.1%)は「維持は難しい」と考えているようです。それでも、64自治会(76.2%)は5年~10年は維持できると考えていますし、8自治会(9.5%)は維持できるとの回答でした。

「自治会の今後の方向性」は、44自治会(52.4)%は「このまま維持していく」との回答でしたが、37自治会(44.1%)は「再編は必要」との認識です。そのうちの11自治会(13.1%)は「困難だろう」と考えています。いろいろな環境を変えるのは容易な事ではありませんが、環境を変えて前進することもあります。

よく話し合い、自治会にとって最善の方向に進んでいただきたいと思います。

以上が今まで報告してきた内容の要約です。今の状況を肌で感じているとは思いますが、現状を知ることが大事です。高齢化や人口減少により自治会運営は非常に難しくなっているとは思いますが、これからのまちづくりのキーワードは、「うれしい」「楽しい」「面白い」です。これを追求しながら、楽しいイメージを描き、「やりたいこと」「やるべきこと」「やれること」の3要素が重なる、真に必要な活動に限定して行ってみてはどうでしょうか。地域の皆さんの力を信じ、楽しく集い、語りながら前向きにチャレンジする。その積み重ねの中に人口減少時代を生き抜く知恵とエネルギーが生まれてくると思います。

地域の活性化は、だれがやるのか? 外の人には助言しかできません。地域の人がやらなければ何も始まりません。

**今、「ここで生活する」と覚悟を決めて住んでいる人たちが、楽しく生活する。これが一番大事なのではないでしょうか。**